

青森県立弘前東工業高等学校

住所 弘前市大字川先四丁目四番地の一号

生徒数 男子八三二名 女子四十八名

部員数 男子二十二名 女子四名

顧問 外崎 成美

コーチ 福田 賢次・工藤 俊一

昭和三十二年に弘前高等電波学校として開校してから本校も今年で三十五周年記念を迎えました。

高等学校は、昭和四十四年に弘前電波工業高等学校として発足し、電子科が設置されました。更に社会のニーズに応じて、昭和五十五年に自動車科が、昭和六十一年には情報科が設置され、校名も現在の弘前東工業高等学校に変更されました。そして昭和六十三年には、それまで各課程の「男子」を「男女共学」に学則変更し、女子の生徒も入学するようになりました。人間尊重の精神に徹し、教師と生徒はともにより豊かな人間性と個性の進展に努めることを教育方針にして『自主』『責任』『協力』『健康』を教育目標にして生徒教師一体となって頑張っています。

昭和四十八年に木立先生が指導しているボクシング部で三人の生徒が全国制覇を成し遂げた様に(当時は弘前電波工業高等学校)、弘前東工業高等学校といえはボクシングでは顕著な戦績をあげ、伝統があります。最近でも、団体優勝をするなど輝かしいものがあります。

本校の空手道部の創立もボクシング部と同じ時期で、昭和四十

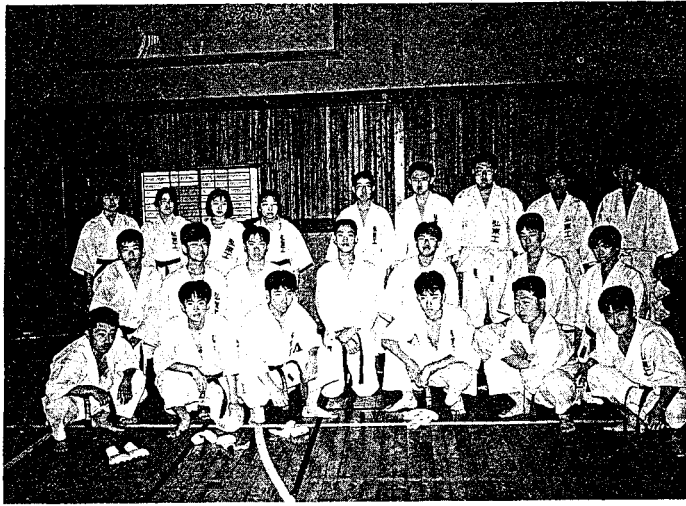
四年に弘前高等電波学校だった頃、弘前対馬道場に通っていた丹藤、岩谷さん達が集まって同好会を作ったのが始まりだということとです。空手道部として二十年以上の伝統がある部として現在に至っています。

最初の頃、空手道部の顧問斎藤哲男先生に聞くことによると昭和四十七年の新人戦大会で男子団体組手優勝、昭和四十八年の春季大会で浜谷鉄雄さんが男子個人組手第二位、高校総体で渋谷秀一さんが男子個人組手第二位、そして東北大会でも男子個人組手第二位という輝かしい戦績を残しています。更に昭和四十八年の青森県高等学校選手権大会においても男子団体組手第二位という顕著な戦績を挙げています。勿論、その当時の選手達の厳しい練習での鍛錬も当然の事ではありますが、現委員長の柴田女子高等学校、松井孝洋先生に指導を受け、一緒に合宿をしていたということでした。

それ以降は、伝統ある輝かしい戦績を残した本校の空手道部も実力が低下し、顧問二人を介して四代目の顧問として私が、昭和五十三年に空手道部を持って現在に至るわけです。その反動からか、以後私の髪は坊主頭となってしまいました。

格闘技は柔道しかやってきていない私にとって、その当時一年生ながら黒帯の斎藤昭仁に任せっきりの状態で、そこから和道流との付き合いが始まり、平成元年まで本校は和道流でありました。それ以後、空手道に段々と深入りしてくようになり、人を介して

和道会に入門し、空手道の事について少しでも分かるように段も取得しましたし、地区の公認審判も取得し努力して来ました。選手にアドバイスしたり、練習方法も変えたりしました。その意味では時々ではあるが、大会で選手が活躍するようになりました。昭和五十五年の新人戦大会で男子個人組手優勝の鈴木幸雄や昭和六十年の新人戦大会での男子団体組手第三位、昭和六十二年の春季大会での男子個人組手第四位の白取昌之、平成二年新人戦大会の男子個人組手第四位の福田賢次など、男子個人組手では最近かなり上位を狙う選手が多く出て来ました。



また、女子生徒が少ない本校では、大部分の女子生徒が各運動部のマネージャーになり、自分から運動部に入って活動する生徒が極端に少ない中で、平成元年に女子マネージャー一人と女子生徒が一人入部しました。その生徒が三年生の時に本人を含めて五人を揃えて、初めて平成三年の高校総体の女子団体組手に出場し、一回戦を五―〇で突破しました。女子が一人入部して

から三年、女子団体組手に団体を出せるようになってから二年目という、歴史の浅い女子の空手道部です。男子同様に実力を発揮出来るように頑張らせたいと思っています。

平成三年から事務局長に就任してから、また忙しくなり空手道部に余り世話をやけなくなったのが現状です。

しかし、昭和四十四年に同好会でスタートした我が空手道部の二十余年の伝統ある歴史を絶対閉じてはならないし、絶対守らなければならぬと思います。新たな空手道部の歴史の一ページを毎年作っていかなければ、という使命感に燃えている今日この頃です。

